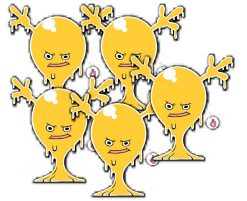


# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年6月14日（月）～令和3年6月20日（日）〔令和3年第24週〕の感染症発生状況

第24週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) RSウイルス感染症 2) 感染性胃腸炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は7.38人と前週（7.11人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.86人と前週（4.49人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.73人と前週（0.57人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

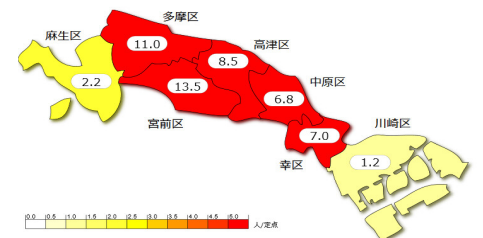


## RSウイルス感染症の報告数が過去最多を更新！

川崎市におけるRSウイルス感染症の定点当たり報告数は、令和3年第20週（5月17日～5月23日）の2.37人から毎週増加しており、第24週（6月14日～6月20日）には定点当たり7.38人と3週連続で過去最多を更新しました。特に、宮前区及び多摩区で報告が多くなっています。

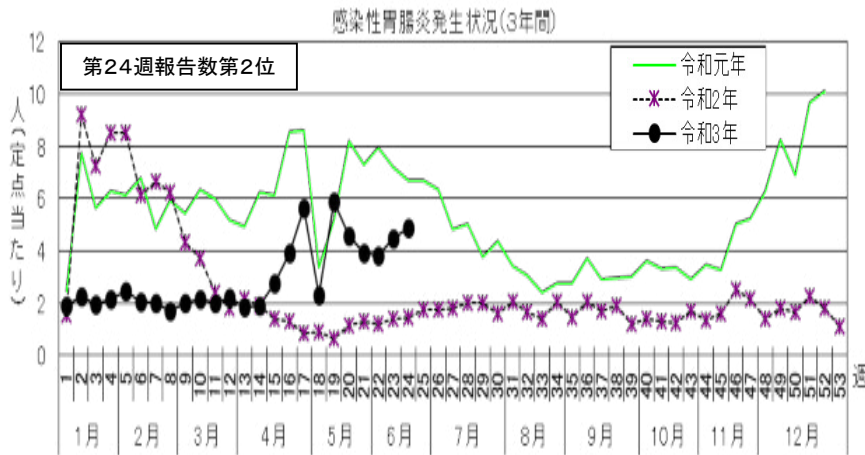
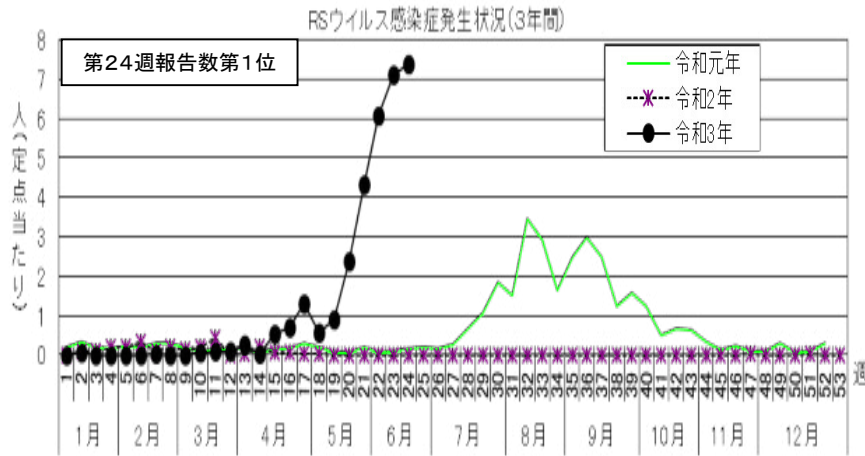
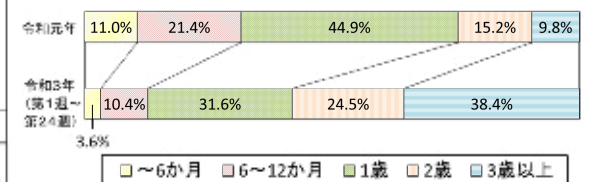
RSウイルス感染症は、2歳までにほぼ100%の児が初感染を受けるといわれており、通常は0～2歳の乳幼児が報告の多くを占めます。昨年は年間を通して報告数が非常に少なく、流行もみられませんでした。今年は報告数の増加に加え、例年と比較して年長児の報告も多くみられますので、3歳以上のお子さんにも感染に御注意ください。

川崎市におけるRSウイルス感染症区別流行状況（令和3年第24週）



川崎市感染症情報発信システム (KIDSS)

川崎市におけるRSウイルス年齢区別発生状況



川崎市におけるRSウイルス感染症発生状況(10年間)

